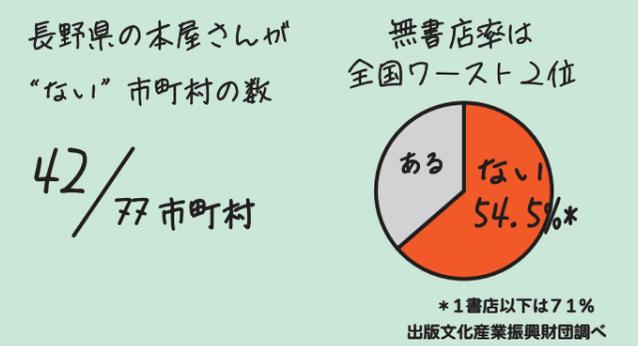


旅先マップ



旅先オーナーになりませんか？

文章



文章

写真1

写真2

『旅する本箱』旅先募集連絡先
〒380-0928
長野県長野市若里1-1-4
県立長野図書館 総務企画課 企画係
電話 026-228-4939
Mail ken-tosho@library.pref.nagano.jp

よくいただくご質問

- Q 旅先になるために必要なものは？
- A 本箱を設置するための場所のみです。物品等は必要ありません。
- Q 費用はかかりますか？
- A 費用負担はありません。
- Q 本は集める必要がありますか？
- A ありません。本はこちらで用意しますが、本を選ぶ作業に参加いただけると嬉しいです。
- Q 管理はどのようにすればいいでしょう？
- A 設置をしたら利用者の皆さんには基本は設置場所で読んでもらいます。持出（貸出）をする場合はノートなどで貸出簿を作成・管理をお願いいたします。

旅する本箱の本たち



『民俗学の旅』
宮本常一
旅に出て、スマホの画面だけを眺めている君！旅に出ることは目的地に行くことではない！宮本善十郎が息子に語った十か条が所収されたこの本は、どこでもドアでは味わえない「旅」を語ってくれる。(ぶらた・森)



『旅の絵本』
安野光雅
字のない絵本です。読んだ人それぞれが創造する物語があると思います。どんな旅に行かれたのか、気になりますね。(つぐら)



『クララとお日さま』
カズオ・イングロ著
人工的に作られた友達 (AF) クララの純粋な心の美しさと、人間の身勝手さとの対比を考えさせられる作品。小学校高学年からおすすめです。いま世間を騒がせているAIとは、一体何のために、誰のために発展していくのでしょうか？これからの未来を生き抜いていく当事者の子どもたちにこそ読んで欲しい物語です。読後感は美しくも切ないです。(おおさん)



『鋼鉄都市』
アイザック・アシモフ著
アシモフのロボット三原則の盲点を突いたSFミステリーです。ロボットやAIと共存する世界の参考になるのでは？(こばゆた)



『ぼくはいついどこにいるんだ』
ヨシタケ シンスケ/作
絵本であっても考えさせられる、そんな作風のヨシタケ シンスケが一冊。"自分のつかまえたか"について、ゆっくり考えてみる一週間とかどうでしょう。どこかに出かけて、書き足して、また何かして……みたいなの。(片雲)



『ツリーハウスがほしいなら』
カーター・ヒギンズ/文
エミリー・ヒューズ/絵
木の上に家を作る。空想するだけで、ゾクゾクします。お気に入りのものに囲まれた、自分だけの天空の城。窓から見える景色はどんなだろう？時々、小動物や鳥が窓から遊びに来てくれたら嬉しいかも。あなたなら、どんなツリーハウスにする？(izumimi)



『世界の郷土料理事典』
青木 ゆり子著
「今日は日曜だし何かここにあるものから作ってみるか」と思いページを開くとあつという間に1時間ぐらい経っていて結局何をつくるか全く決まらぬ。でも、全く行ったこともなければ一生行くこともないようなモーリタニアの郷土料理が今は不思議と我が家の定番料理になっています。(jun)



『世界の台所探検』
岡根谷実里・著
世界の台所探検家の岡根谷さんは、長野県出身です。実は、高校で同じ学年だったので、今こんな活動をしているのに驚きました。ただ料理と一緒に作るだけじゃなく、そこからその国や地域で暮らす人たちのことがわかってきます。知らない世界を教えてください。素敵な活動だと思っています。(とよみ)

『旅する本箱』のしくみ

『旅する本箱』は信州中に設置されたミニ図書館です。
さまざまなテーマに分かれた本箱が一定期間ごとに旅先を
巡ります。普段本に接する機会の少ない場所から場所へ。
ぜひ気軽に立ち寄って、新しい本との出会いを楽しんでください！



本箱のテーマ



SFはもちろん他にも



休みがあつたらどんなことしたい？



思わず睡を飲み込むような



旅？それとも・・・？

本箱の旅先



中信
リパブリック
泊まれる本屋 Re:Public
〒399-9301 北安曇郡白馬村北城 7078



北信
いいやませきじゅうじびょういん
飯山赤十字病院
(1F エントランスホール)
〒389-2295 飯山市大字飯山 226-1



南信
ゲストハウス フルマチ邸
fukumachi tei
〒399-3303 下伊那郡松川町元大島 652-2



東信
なかごみえき
JR 中込駅 (待合室)
〒385-0051 佐久市中込 2021

2024年11月時点

『旅する本箱』のつかいかた

『旅する本について』



本には選んだ人のメッセージや
読んだ人の感想など旅してきた
しるしがついています

『どこで読めるの？』



本箱の本は建物内で自由に読んで
もらって大丈夫です。「旅先」に
よっては借りることも可能です！

『旅のしるしを残そう！』



by
■
リストの書きかた

出だしだけは覚えていた。
全部読んだのは
初めて！

ぜひ本の感想やコメントを
ふせんやノートに書いて
本に旅のしるしを増やしてください！



次の旅先であなたの
メッセージが
誰かに届きますように！



『旅する本箱』
公式 Facebook

最新情報は
Facebookを
チェック！

お問合せ：東立長野図書館 総務企画課 企画係
電話 026-228-4939 メール ken-tosho@library.pref.nagano.jp
『旅する本箱』運営：東立長野図書館 / Learn by Creation NAGANO 実行委員会

旅する本箱



信州のあちこちを旅しながら
本と人、人と人をつなぎます

『旅する本箱』は東立長野図書館と
Learn by Creation NAGANOの協働プロジェクトです

利用者のためのツール

旅する本箱のストーリー

皆さんは、本とどんな風に出会っていますか？
本屋さんや図書館など本がたくさん置いてある場所に行ったり
ネットで必要な本を探したりいろいろな方法があると思います。
でも、本屋さんになくなってしまったり、図書館が遠かったり、
普段なかなか本がある場所に行けない、行けないという人も
多くいるのではないのでしょうか。
そういった本との出会いが減ってしまった人たちにも
本を身近に感じてもらえる何かいい方法はないだろうかと思った時、
「人が本を探しに行くのではなく、本のちから人のいる場所へ
訪れたらどうだろう？」と発想を変えてみました。



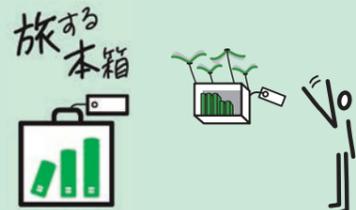
まるでサーカス一行が旅をしながら街にやってくるように
自分にとつての日常に期間限定で非日常がやってくる。
そんなイメージを持ってみんなで話し合いをはじめました。
その中で決まったのは・・・

- ・本は一つの場所に留まらずにいろいろな場所を巡ること
- ・本箱ごとにテーマを決めて本を詰め込むこと
- ・本には誰でも自由にメッセージをつけられること



そこから本の旅支度が始まりました。
まずは、本好きのみんなと本箱ごとにテーマを考え、
そのテーマに沿った選りすぐりの本を選びました。
そして本箱を置いてくれる旅先を募り、
信州各地の々々の旅先が最初に決まりました。

最後に、選んだ人たちのメッセージも本に残して
本箱に詰め込み、信州中の旅先へと送り出しました。
こうして本が旅をする様に、信州中の旅先を巡る
『旅する本箱』がスタートしました。



『旅する本箱』は、東立長野図書館と
Learn by Creation NAGANOの協働によるプロジェクトです。
本との新しい出会い、本を紹介、
時間と空間を越えた新しい人と人との出会いが
生まれることを願っています。